



2024 年度
第 46 号

体育市民連帯 ニュースレター

1
体育元老
体育界の自律性を
守れるリーダーに
期待



2
李ギボン体育会長
職務停止にも出勤強行
会議主宰と
選手村訪問



3
体育会
「選挙介入」主張に
文化体育観光部
「正当な監督権限」反論



4
「暴力根絶」
スポーツの
解けない
宿題か



5
バスケ協会副会長
バスケットボールが
大韓民国のスポーツの
変化を先導します



大韓民国スポーツの

根本的变化を

皆さんと共に

作って行きたいです

体育市民連帯と共に

していただけませんか？



*

01 SBS 2024.11.25**体育元老 「体育界の自律性を守るリーダーに期待」**

文化体育観光部と大韓体育会が激しく対立している中、体育界の元老たちが現状に対する立場文を発表しました。

大韓体育会の体育元老たちはまず「大韓体育会がスポーツマンシップに立脚した公明正大な組織に生まれ変わり、国民から信頼される行政力を回復することを願う」として「誤った慣行があるならば謙虚に反省し改善しなければならない」と明らかにしました。

続いて監督機関である文化体育観光部には「行き過ぎた干渉や一方的指示よりは疎通と協力のリーダーシップを通じて、大韓体育会のような目標に向かっていくパートナーの姿を見せることを期待する」と要請しました。

体育の元老たちは来年1月14日に開かれる第42代大韓体育会長選挙に対する立場も示しました。

元老たちは「分裂よりは和合と団結を図ることができるリーダーシップを備え、2036年夏季オリンピック誘致のために国際舞台でスポーツ外交力を発揮できる能力を持った人物が必要な時だ」とし、「政府の正しい政策については積極的に協力するものの、IOC憲章に明示された体育界の自律性を守る事ができる体育首長の登場を期待する」と強調しました。

続けて「次期大韓体育会長選挙がすべての体育人と国民が歓呼できる雰囲気の中で行われる祝祭の場になることを願う」とし「すべての候補者が共感する公明正大な過程を通じてこの時代が切実に望む人物が会長に選出されることを期待する」と付け加えました。

出典:https://news.sbs.co.kr/news/endPage.do?news_id=N1007886368&plink=ORI&cooper=NAVER

02 東亜日報 2024.11.21**李ギフン体育会長、「職務停止」にも出勤強行…会議主宰と選手村訪問**

文化体育観光部（文化部）から職務停止処分を受けた李ギフン大韓体育会長（69）が21日午前、事務室に出勤して会議を主宰した後、午後には鎮川選手村を訪問して業務報告を受けた。

国務調整室・政府合同公職服務点検団は、職員の不正採用（業務妨害）、物品後援要求（金品など授受）、後援物品の私的使用（横領）、予算浪費（背任）などの疑いで10日、李会長に対する捜査を警察に依頼した。

すると文化体育観光部は、公共機関役員が金品不正、採用不正などを犯した事実があったり疑惑がある時、該当役員の職務を停止できると規定した「公共機関の運営に関する法律」により、11日李会長に職務停止処分を下した。

李会長側は「大韓体育会長ではなく国際オリンピック委員会(IOC)委員の資格で業務を処理したので問題になることはない」と主張したと知られた。李会長は国家オリンピック委員会(NOC)委員長の資格で2019年IOC委員になった。

大韓体育会労働組合は「大韓体育会長の資格でIOC委員に選任された者が会長職務停止状態でIOC委員の職位を口実に掲げる言語道断に陥った行動」と批判した。大韓体育会の労組組合員は同日、ソウル松坡区のオリンピック会館と忠清北道鎮川の選手村で、李会長の出勤を糾弾するデモを行った。

出典:<https://www.donga.com/news/Sports/article/all/20241121/130478844/1>

03 連合ニュース 2024.11.19

体育会「選挙介入」主張に文化体育観光部「正当な監督権限」反論



最近、文化体育観光部(以下、文体部)が李ギフン大韓体育会長に職務停止を通知し、大韓体育会はこれに対抗してソウル行政裁判所に職務停止通知に対する取り消し訴訟と執行停止仮処分申請を出すなど葛藤様相が深化している。

これは李ギフン会長が2025年1月に予定された大韓体育会長選挙で3選に挑戦しようとする状況をめぐって繰り広げられる力比べだ。

大韓体育会の定款によると、会長を含めた役員は任期を1回再任することができ、3回目の再任のためにはスポーツ公正委員会の審議を経ることになっている。

李ギフン会長の3選挑戦を審査した体育会スポーツ公正委は12日に開かれ、大韓体育会の主務部署である文体部は11日夕方に李ギフン会長に対する職務停止を電撃通知した。

これに対して大韓体育会は、文化体育観光部が会長選挙に不法に介入していると反発した。

しかし体育界の一部では「国務調整室政府合同公職服務点検団で業務妨害と金品授受、横領などの疑惑で捜査依頼対象になった李ギフン会長が3選に挑戦することが無理」という指摘が力を得ている。

その上、10日に捜査依頼、11日に職務停止通知が順になされた状況で、12日に李会長の3選挑戦を承認したスポーツ公正委の決定を巡り、公正性を批判する声も高い。

文化体育観光部は「李ギフン会長が任命した人々で構成されたスポーツ公正委が李ギフン会長の再任許容を審査することは不正だ」と指摘したが、李ギフン会長は10月全国体育大会閉幕日記者会見で「公正委構成を変更するには手続きが始まる前に変えるか、次の制度改善を通じて変えなければならない今変更するということはあるにないこと」と押し付け、結局自身が任命した委員から3選挑戦承認を受けた。

文体部関係者はこれに対して「大韓体育会スポーツ公正委は独立的審議議決権を持つ委員会として主務部署の是正命令がある場合、該当委員会審議を経て受け入れるかどうかを決めなければならないが、このような手続きなしに体育会事務局独断で受け入れることを拒否した」と指摘した。

手続きの正当性が欠けているという事実を皮肉ったわけだ。

また、大韓体育会が「スポーツ公正委審査前日の11日、文体部が職務停止を通知し公取委審査に介入しようとした」と主張することにも文体部関係者は「10日国務調整室公職服務管理官室調査結果、不正疑惑で捜査依頼された状況で公共機関の運営に関する法律にともなう措置をした」と対抗した。

この関係者は「国民体育振興法上、(大韓体育会長に対する)承認権がある主務部署は傘下公共機関が公正に運営されるよう管理監督しなければならない責務がある」として「現在、李ギフン会長が体育会長選挙出馬可否を明らかにしていない状態で文体部の選挙介入を主張することもやはり論理的矛盾」と正面から反論した。

大韓体育会労働組合と幹部級役員らも相次いで李ギフン会長の3選挑戦に批判的な立場を出し、文化連帯と体育市民連帯、スポーツ人権研究所など体育界市民団体も共同声明を通じて「李ギフン会長はセルフ審議謝罪し、直ちに辞退せよ」と促すなど李会長を狙った選挙不出馬圧迫強度は日増しに高まっている。

出典：<https://www.yna.co.kr/view/AKR20241119099000007?input=1195m>

04 イデイリー 2024. 11. 23

「暴力根絶」スポーツの解けない宿題か



男子プロバスケットボール (KBL) 高陽ソノ球団の金スング監督が自ら辞任した。21世紀に起こりうることなのかとも思うが、ある選手への暴行論議のためだ。

ソノ球団は22日「金スング監督が最近起きた論難に対する責任を負って自ら辞退した」と発表した。最近起きた議論が、ほかならぬ選手への暴行だ。金監督は10日、ソウルSKとの遠征試合で前半戦を終えた後、ロッカールームでA選手を叱責する過程で濡れたタオルを投げるなどの暴力を行使したという。

事実関係の争いがあるものの、A選手は顔に濡れたタオルをかけられた後、選手団を離脱した。この事件はKBLクリーンバスケットボールセンターに申告が受け付けられ、広く知られた。ソノ球団は独自調査の後、KBLに財政委員会の開催を要請した。金監督は、「故意にした行動ではない」と抗弁したが、結局、席は守れなかった。KBLを代表する名将の名誉でない退陣だ。

スポーツでは、指導者が選手を厳しく叱ったり、暴言、暴力を行使する事例が一度や二度ではない。バスケットボールは中継画面に現れる前タイムの時、興奮した監督が選手に悪口を吐いたり、卑俗語を使う場合をよく観察することができる。

かなり前のことだが、プロ野球では02年当時、金ソンハンKIAタイガース監督が2軍捕手をバットで殴打して物議をかもしたことがある。成人プロチームではないが、サッカーでは金浦FCユースチーム所属の選手がコーチの反復的な言語暴力に極端な選択をしたことがあった。孫フンミン(トッテナム)の父親、孫ウンジョン氏が運営するSONサッカーアカデミーでは、児童虐待の議論が起きた。

国内スポーツの問題だけではない。「スポーツ先進国」と呼ばれる米大学スポーツでも最近、指導者の虐待行為が俎上に載せられた。2020年、ウィチタ州立大学男子バスケットボールチームを率いたグレッグ・マーシャル監督は、選手たちに暴力と暴言を振るった理由で辞任した。テキサステック大学女子バスケットボールチームのマーリン・ストーリングス監督は、虐待文化造成の容疑で首になった。2021年シラキュース大学女子バスケットボールチームのクエンティン・ヒルズマン監督は選手いじめとセクハラで解雇されたが、一部の選手たちは心理治療を受けるほど大きな衝撃を訴えた。

プロスポーツであれ、学生スポーツであれ、指導者が選手を対象に暴言や虐待、暴力行為は正当ではない。特に、選手を職業にしている成人スポーツにまで指導者の暴言、暴力行為が発生するということは、構造的な側面から問題を探さなければならない。具体的に権威主義的文化、勝利至上主義、慣行の正当化、責任回避構造、選手人権意識の不足が挙げられる。

権威主義的文化は、選手たちの出場機会に莫大な影響力を行使する監督の絶対的権力と軍隊式文化が監督の権威的行動を正当化することだ。勝利至上主義は「勝利のためなら何でも」という考え方が蔓延しているのだ。勝利至上主義が蔓延している状況で、監督たちは手段と方法を問わず、成果を出すために選手たちをむち打つ。その過程で選手たちに暴圧的に接するのだ。

暴圧的な行為を厳格な訓練や、昔のやり方で包装したり、暴力と暴言を通じて選手たちの精神状態を強化するという正当な慣行とみなす傾向も強い。責任回避の仕組みは、問題を起こした指導者個人の性格や逸脱行為として捉え、事件を縮小しようとする傾向にある。

先輩・後輩、師弟関係など特殊な関係を結ぶことを通じて申告を難しくすることも一役買っている。何よりもスポーツ界内部の人権意識が依然として不足している。選手たちの精神健康と人格を尊重する文化がまだ形成されておらず、指導者に対する人権教育もまともに行われていない。指導者の暴力や暴言などの行為を根絶しなければならないのは、スポーツ界が解決しなければならない宿題だ。しかし、容易ではない。海外の事例からも確認できるように、これはスポーツの特殊な性格ともかみ合った問題だ。それでも指導者の暴圧的な行動は根絶しなければならない。

最も重要なことは、指導者と選手間の水平的関係を奨励する文化が定着しなければならない。これは開放的で透明な意思疎通が前提にならなければならない。指導者と選手を対象にした人権、疎通、ストレス管理および感情調節方法に対する定期教育プログラムも方法になりうる。

暴言、暴力、侮辱的言辞など禁止行為を明示し、これに違反した時に明確な懲戒手続きおよび処罰基準を提示することも体系的に問題を管理できる手段になりうる。

出典：<https://www.edaily.co.kr/news/read?newsId=01092246639088672&mediaCodeNo=258>

05 ジャンプボール 2024.11.20

協会副会長「バスケットボールが大韓民国のスポーツの変化を先導します」



大韓バスケットボール協会の鄭ジェヨン副会長は韓国バスケットボールに希望があると話します。システムの変化、「K-ディビジョン」の定着が韓国バスケットボールの体質を変えることができると確信しています。さらに、韓国スポーツのパラダイムを変えることができると強調しています。

その作業が決して簡単にはありません。最初の課題は、人材と予算です。システムを変えることで、システムを変えるのも結局のところ人です。能力のある人を十分に活用するには予算が必要です。鄭副会長は関連機関の予算がどのように使われるのか比較的好く知っています。元記者が持つメリットです。

人材はどうでしょうか？

「協会の職員たちが推進しようとすることに積極的に参加してくれています。結局は人が重要ですが、マンパワーが悪くないです。外から見る時と違いました。従業員のほとんど（年齢）が2、30代です。モチベーションが上がれば、意欲的に働ける人たちです。未来戦略という計画の実現可能性は非常に希望的です」

今のマンパワーが悪くないと評価します。ただし、人員は増やす必要があります。今の人材では事業を拡張するのに限界があります。協会の当面の最大の課題は、人材と予算の確保です。

課題はまだあります。一部のバスケットボール関係者の鄭副会長に対する認識です。彼はKBS記者時代、既存のエリートシステムを批判しました。『申し訳ありません。運動部です』と「スポーツと性暴力に対する人権報告書」等、彼が企画したプロジェクトの波紋が小さくありませんでした。それはエリートシステムに対する否定と読まれることもありました。

ところが、彼は『運動する子が幸せだ』の共同著者でもあります。彼の主張は、勉強と運動、仕事と運動を並行する人生が健康で幸せだということです。あわせて、今のエリート中心の韓国体育は危機だと診断します。エリートの解体ではなく、エリートの土台を固める解決策が必要だと話しています。

▲ エリートの解体ではなく、土台を堅く

鄭副会長はエリートサッカー選手でした。中学校の時、怪我でサッカーに対する夢をあきらめました。サッカーが好きでしたが、サッカー選手の記憶が好きではありませんでした。殴打と悪口が飛び交う80年代初めの運動部には人権がありませんでした。その経験は、スポーツ改革プロジェクトを始めた理由の1つです。

しかし、彼は今でも運動が好きです。大学時代にバスケットボールと縁を結び、今でもコートで汗をかくことを楽しんでいます。彼にとって、短いエリート経験は悪い記憶だけではありません。大切な夢だったし、夢を実現するための熱情でした。彼は自分と同じだった若い選手たちを応援します。彼らがうまく成長できるシステムを作りたいです。

彼が追求する改革は人に向けません。結局のところ、システムです。アメリカで勉強しながら、また記者として現場で多くの体育人に会いながら深く体得したのです。

「現場で多くの指導者に会いました。その方たちが私にたくさんの力をくれました。私の考えが正しいという、彼らを説得するという傲慢な考えはありません。記者は聞く職業です。聞いた内容を伝えることです。協会の仕事もそうです。現場の意見をもっと幅広く取りまとめるつもりです。そして、大切な意見を広め、再び集める作業を続けるつもりです」

鄭副会長が追求するシステムの変化が韓国バスケットボールのルネサンスを作ることができるのでしょうか。その成功を通じて韓国スポーツのパラダイムが変わることができるのでしょうか。未来を予測するのは難しいです。ただ明らかなのは、今の韓国のバスケットボールは変化が必要だということです。

5月、鄭ジェヨン副会長は記者たちを対象に「大韓民国バスケットボール未来発展戦略報告書」を直接説明しました。某記者が「予想される困難はないか?」と尋ね、鄭副会長は「茶碗に勝つ正義はない」と答えました。「指導者たちがシステムの変化を受け入れることができるか」を悩み、バスケットボール界の現実に即して、指導者たちが受け入れられる水準で一步ずつ進む」と付け加えました。

鄭副会長は就任後、大会が開かれる現場を多く訪れました。地域を回りながらバスケットボールの未来戦略を説明しました。それでも否定的または懐疑的な視線は依然としてあります。鄭副会長は「より多く会ってビジョンを知らせる」という考えです。

計画を執行し、点検し、補完する人材とシステムも課題です。現在、協会の常勤人材として新たに事業を拡大するには限界があります。最適な効率を見つける緩急調節が必要になる場合があります。

鄭副会長にインタビューしながら、バスケットボール関係者たちの考えを一緒に聞きました。変化の必要性には概ね異論がありませんでした。変化の方向性は具体的に分からない場合が多かったです。大韓民国バスケットボールの未来。大きな談論です。ミクロ的な変化とそれに伴うより多くのコミュニケーションも必要に見えます。

出典：<https://m.sports.naver.com/basketball/article/065/0000270064>

06 週間スポーツニュース

忠州運動部学生性暴行事件の厳罰要求… 地域市民団体及び教育連帯記者会見

<https://www.nbntv.kr/news/articleView.html?idxno=334218>

星州バンダビ体育センターのテスト運営… 年末まで無料

<https://www.inews24.com/view/1786670>

民楽国民体育センター、無料テスト運営… 自律水泳・アクアロビック

https://www.newsis.com/view/NISX20241125_0002971674

泰安郡、全国で初めて「村・町障害者体育会」発足

<https://news.lghellovision.net/news/articleView.html?idxno=488951>

麗水マンマ体育センター、最優秀公共体育施設選定

http://www.kjdaily.com/article.php?aid=1732529588645095008#google_vignette

来年の慶南道民体育大会、晋州で5月2日から開催

<https://news.kbs.co.kr/news/pc/view/view.do?ncd=8114161&ref=A>

「李ギフン会長職務停止」体育会、金オヨン会長職務代行体制

<https://www.yna.co.kr/view/AKR20241122105500007?input=1195m>

来年から果川市管内の関門体育公園など3ヶ所のテニスコートを統合運営

<https://www.kgnews.co.kr/news/article.html?no=818945>

生活体育大会で和合・友情…ダジン牙山の女性たち

<https://www.cctoday.co.kr/news/articleView.html?idxno=2204305>

体育市民連帯オンライン 定期後援案内

万人が楽しむスポーツ世界、体育市民連帯が共に作ります。
私達連帯の活動に積極的に賛同していただくことを願います。

私たち体育市民連帯は体育人の権益保護と
福祉実現のために努力しています。
皆さんの小さな心づかいがより良い世界のための
体育市民連帯活動に強固な土台となります。
体育市民連帯会員として力になろうと
される方は下の口座に後援お願いします。

国民銀行 086601-04-095940

口座名義：体育市民連帯

オンライン定期後援は下のリンクを通じてホームページからできます。

多くの関心をお願いします。

体育市民連帯 ソウル市 瑞草区 瑞草洞 孝寧路 230 スンジョンビル 407 号

Tel : 02-2279-8999、E-mail : sports-cm@hanmail.net ホームページ : <http://www.sportscm.org/>

日本語訳：佐藤好行 新日本スポーツ連盟 国際活動局 韓国担当 jr1fep@gmail.com

週刊ニュースレターバックナンバー（資料室） <http://www.yg.jpn.org/sportscm/index.html>